

●けいはんなホール

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西文化学術研究都市が他府県にまたがっている立地を活かし、近隣府県と連携したコンベンションの誘致など、利用者の増加を図ること。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年 3 月にけいはんなコンベンション誘致推進協議会を設立。 ・他府県主催を含む誘致商談会に参加、学研都市の環境や立地・コンベンション設備について PR（直近参加実績：平成 30 年 3 月、令和元年 12 月、令和 2 年 2 月、令和 3 年 2 月）。 ・研修会プラン等インセンティブプランの設定や京都市内・大阪府・奈良県を含む周辺地域のエクスカージョンの提案等、積極的なセールスを実施。 ・具体的な実績として、平成 28 年 11 月の APECTEL54、平成 29 年 7 月の日 ASEAN 次官級交通政策会議エクスカージョンの開催等。第 22 回日本・スペイン・シンポジウム(外務省主催)の誘致決定※新型コロナウイルス感染症の影響で開催延期中 ・学研都市域内（他府県域を含む）の行政・企業等の参加する会議やイベントの開催と、それらの場で誘致について情報を提供し、共有。 ・学研都市訪問、会議主催者の下見等を含め、上記協議会を中心に視察等を積極的に受け入れる他、オンラインでの PR ツール作成など新型コロナウイルス感染症収束後の利用拡大を見据えた取組に着手。
<p>取組の結果</p>	<p>◇施設全体の利用率は、依然として約20%台と低迷。</p>
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆築 28 年が経過しており、建物・設備の老朽化が進行し、設備保守の費用や突発的な修繕費等が増加傾向。 ◆長期間赤字が続いており、赤字幅が拡大傾向。
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □毎年多額の赤字が出ていることは問題であり、施設の利用方法を検証の上、赤字の解消に努めるべきである。老朽化も進行する中、指定管理料の範囲内で事業収支を合わせる運営を続けるのではなく、新たな収益の柱を積極的に検討されたい。 □研究者招聘による学会開催や、事業者行事の活用を促進するためには、当エリア進出企業との連携強化に加えて、宿泊施設等の充実も含めた MICE 誘致のための取組への注力が必要である。 □けいはんな地区に代替施設がないことも事実であり、エリアの今後の発展を考えると、ホールのみならず、エリア一帯を組み込んだ広報等の戦略を検討されたい。

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">要改善</p> <p><改善方策></p> <p>◎老朽化による施設改修も見据え、設置目的や必需性、今後の費用負担も含めて検証し、関西文化学術研究都市エリアの戦略も踏まえた中長期的な施設のあり方を検討すること。</p>
	<p><今後の対応></p> <p>○これまで注力してきたコンベンションの誘致に引き続き取り組み、3府県にまたがっているという立地の特性も活かして利活用を図る。</p> <p>○中長期的な施設のあり方を検討しつつ、約150の企業や研究機関が集積しており、産官学住で発展してきた文化学術研究都市エリアの強みを活かして、各種交流イベントの開催等を通じ、より一層のホール活性化を図る。</p>